

たが、だまっていることにした。私の沈黙をたじろいだと見たのか、追い打ちをかけて来る。「威海衛を知っているなら、黄海に面した煙台市もご存知でしょう。煙台というのは烽火をあげる高台のことで、倭寇を発見すると、ここで“のろし”を上げて遠くの人々に危険を知らせたんですよ」だって。

ここ山東半島から南へ400キロメートル程、青島と上海の間地点あたりに、「淮河」という大きな川がある。この川を境にして中国大陸の農産物は南北に二分され、川の北側は「麦」で、南側は「稲作」に変わる。云い代えると、中国の北半分が「ソバとマンジュウ」の文化、南半分は「コメ中心の食生活」。これは淮河のせいではなく、春夏になると冷たい大陸性高気圧が、淮河あたりを南限にして、華北から華中にかけて上空を覆ってくる為に、淮河の北側と南岸とでは、年間平均気温が著しく違うからだ。

この寒気を含んだ高気圧の南限を東へたどって、日本列島まで線をひいてみると、福島県と茨城県の県境にあたるのが判る。ちなみに、江戸時代以前、福島県以北の東北地方ではあまりコメが獲れなかったようだ。北海道では全く獲れず、コメがゼロの松前藩の石高が3万石と呼ばれたのは、米の生産量ではなく、こんぶや魚油などの海産物が北前船で大阪などへ運ばれ、帰り船に積んでくる等価の米の年間総数量であったと云われる。

つまりこの100年の間に、日本の農業技術はめざましい進歩をとげ、寒冷地に強い、害虫に負けない、生産効率の高い品種が次々と開発されたと云える。今の北海道は厳しい減反を実行しているにもかかわらず、米は年間80万トンを超える日本一の生産量、第二位の新潟を大きく引き離している。

中国の農業は、幸か不幸か多くの大河に恵まれ、流域の土壌が一般に肥沃であるが故に、概して大ざっぱ。自然に逆らうことなく、寒い地方なら麦か雑穀、温暖な土地では稲と決めつけて、あとはお天とう様次第といったところがある。中国の農産物の出来、不出来が、日本を含めた諸外国へ影響を及ぼすことは理解出来る。それなら日本の先端農業技術をもっと中国へ提供しようではないか。

米価や厳しい減反、後継者不足等々、日本の農村がかかえる悩みは多い。しかしこれからの日本には「農業技術者」という職名の、ソフトを売る新しい職業があり得ると思う。中国大陸に限らず、砂漠化の進む地域等に於いても、日本の技術者は好待遇で迎えられると確信する。既に日本からの技術援助はNPO等の形で部分的になされている話も耳にするが、いずれも規模の小さなものでしかないようだ。ODAの扱いにして国の大きな予算を投入しても、既存の農業補助金と違って「死に金」にはなるまい。

多くの大河が、中国の農業に恵みとなっている一方で、経済の発展が進めば進む程、流域の工場から流れ出る工場廃水や生活廃水の方も気になって来る。

川が巨大であるだけに、水銀やカドミウムが検出されても、イタイイタイ病や水俣病に似た病人の発生することが判明しても、それらの究明と解決には気の遠くなる程の労力と年月を要するに違いない。過去に、多くの悲惨な歴史を積み重ねて来た日本人は、この方面でも豊富な経験を生かせる。

公害といえば、毎年3~5月にかけて大陸から吹いて来る「偏西風」も日本にとって問題だ。自然現象ではあっても座視出来ない。内陸の黄土地帯で乾いた風が土ぼこりをまきあげ、「黄砂」となって海を渡り、日本列島へ降って来る。九州あたりではこの「黄砂」を、「春の訪れを告げる」俳句の季語にもしているらしいが、これがダイオキシン等の有害物質の枕言葉にとって代わる日が来るかも知れない。

中国の人々が豊かになるにつれて、冷暖房も更に普及、車の数が増えてエネルギーの消費も激増しよう。フロンや二酸化炭素の排出量が増えてくる事は覚悟せねばならない。中国は石炭が豊富で、工場のみならず一般家庭の燃料も石炭が主流だから、人口は日本の10倍でも、二酸化炭素だけは20倍も30倍も発生する可能性がある。

ゴミ処理施設が極めて原始的。焼却場があっても排煙の心配まで頭がまわってない。経済の活性化は日本海沿岸地域で著しい。沿岸地域で発生するMADE IN CHINAの有害物質は、多少地元被害を与えるかも知れないが、大部分は偏西風の働きですぐに日本海へ押しやられ、日本海の魚と朝鮮半島及び日本列島のみを汚染する結果になりかねない。これでは、所沢市の産廃処理に気をとられている埼玉県民や東京都民には、たとえ所沢問題が完璧な解決に到ったとしても気休め程度にしかならない。

中国の公害は、むしろ日本の問題として深刻にとらえる必要がある。農業技術だけでなく、公害対策先進国の一つである日本の役割は大きい。中国政府へは積極的に「援助もするが口も出す」べきだ。13億の人々が、徐々にでも民主化に前進しているであろうことは慶ばしい。しかし多くの改革や対策の実行は、日本並みの民主化を手にしてからでは遅い。ゴネ得等、民主主義の拡大解釈や弊害が、日本の10倍も出て来ては手のほどこしようもないだろうから。

700人の工場労働者をかっさらって行ったり、高速道路を一夜にして麦の干し場に変身させられる程の共産党の強権が通じているうちに、ドラマチックに有効な対策を実行してもらいたい。

私は今、中古の公害測定機器を寄付してくれる人や団体を捜している。各種の機器を青島へ送ってやる計画だ。今度又中国共産党の連中に会う機会があったら「公害対策も是非グローバルの方でやってくれよな」と云うつもりだ。追い打ちには「威海の市名の方はどうでもいいから“衛”の番所だけは復活させて、公害測候所にしたらどうだ」も付け加えてやろう。日本の海賊は多分もう来ないから。〈完〉